

週刊 SSH (3月14日)

第4回 高校生から学ぶ ふくしまの今とこれから(1年)

国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた「高校生から学ぶふくしまの今とこれから」に、フランスサイエンス研修参加者5名が参加しました。

口頭発表やポスターの形式で、事前学習の成果を発表しました。そこで多くの先生方や学生から質問やアドバイスをいただくことができました。

また、大学生や福島県の高中生とのグループディスカッションを通して、私たちが目指したいこれからの福島、日本のことについて話し合いました。



本校卒業生の東京電力エナジーパートナー（株）代表取締役社長の長崎桃子様（2列目中央）との集合写真

いただいたアドバイスや初対面の学生と議論した経験を、フランスサイエンス研修に活かしていきます。

私は今回のイベントで特にグループディスカッションをしたことが印象に残っています。私たちのグループでは「福島のこれからについて、どのような町にするべきなのか」というお題で議論をしました。実際に福島で生活している地元の高校の生徒さんと話すことができ、私たちが思っているよりもずっとポジティブに自分達が暮らしている町と向き合っていることが分かりました。原発事故が起こった場所だからといって周りの人が勝手に「可哀想」「危なそう」などと言うのではなく、そこに暮らしている人々の意見や正確な情報を得ることの大切さを感じました。

私は今回、福島の高校生の発表を通して、初めて「再生土問題」の現状を知ることができました。地元の中高生が当たり前知っていることでも、外部の人は聞いたことがなかったり、誤解したりしている問題があると認識しました。ディスカッションやポスターセッションでは、さまざまな地域の高校生、大学生と自由な雰囲気での交流でき、とても刺激になりました。福島の高校生が商品開発をしているお菓子もいただきました。おいしかったです。